

IT用語って次から次へと出てきますよね?!

# 2025年押さえておくべき ITワード&トピックス10選!



2025年1月から日本経済新聞や日経BP等に掲載された回数の多いITワードやトピックスをわかりやすく整理しました。

## HOT 10 IT WORD & TOPICS

知っておくべき「10」のホットキーワードやトレンドをわかりやすく解説します。頻繁に目にするワードですが、「わかっているようで、ポヤッとしているもの」も多いですね。やはり、AI関連とセキュリティに関するワードが多いですね。  
**お客様のビジネスを加速させるヒントにしていただけましたら嬉しいです!**



HOT WORD  
**生成AI**  
(Generative AI)

画像や文章、音楽など、新たなコンテンツを生成するAI技術です。例えば、テキストを入力すると、AIが自動で文章を作成したり、様々な画像を生成したりできます。ビジネスでは、コンテンツ(文書・画像)作成の効率化や、日常的に使う言葉でAIとやり取りすることで(壁打ち)新しいアイデアの創出を手伝ってくれます。



HOT WORD  
**大規模言語モデル**  
(LLM: Large Language Model)

大量のテキストデータを学習して、人間のように自然な文章を生成するAIです。例えば、質問に答えたり、文章を翻訳したりすることができます。ChatGPTやCopilotもその一例で、生成AIの基盤技術の1つです。

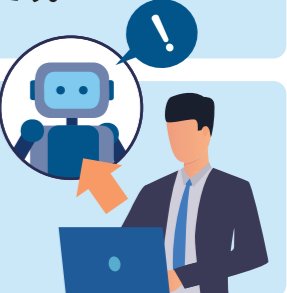
HOT WORD  
**エッジAI**

デバイス自体(スマートフォンやIoT機器)にAI処理能力を搭載する技術です。クラウドにデータを送る必要がないため、リアルタイム性が求められる処理や、プライバシー保護が重要な場合に活用されます。最近、多くのパソコンメーカーがNPUを搭載したAIパソコンを次々と市場に投入しています。



HOT WORD  
**プロンプトエンジニアリング**

AIに対して適切な指示(プロンプト)を与える技術です。AIがより正確で有用な回答を生成することができます。例えば、質問の仕方を工夫することで、AIから欲しい情報を引き出すことができます。AIの能力を最大限に引き出すためには、プロンプトの設計(書き方)が重要です。



HOT WORD  
**人間中心のAI社会原則**

AI技術が人間の利益を最優先に考えるべきという考え方です。プライバシーの保護、公平性の確保、透明性の維持などが含まれます。AIが社会に与える影響を考慮し、倫理的に利用することが求められます。内閣府もWebサイトにガイドライン等を掲載しています。

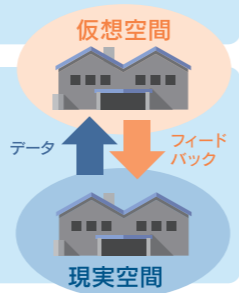


HOT WORD  
**RPA**  
(Robotic Process Automation)

パソコン上で行う定型業務を自動化する技術です。請求書の処理やデータ入力をRPAで自動化し、業務効率を大幅に向上させることができます。大きなメリットは、作業時間短縮、ヒューマンエラー削減、そして24時間365日稼働が含まれます。労働力不足対策と社員が重要・コアな業務に集中できるようになります。

HOT WORD  
**ゼロトラストセキュリティ**

ゼロトラストとは、「誰も信用しない」を前提としたセキュリティ対策の考え方です。従来は、社内ネットワークは安全だと考えられていましたが、リモートワークやクラウドサービスの普及などにより内部からの攻撃も増えています。ゼロトラストでは、本人確認を行い、アクセスするデバイスや場所ごとに危険なセキュリティチェックを実施します。



HOT WORD  
**AIを利用したサイバー脅威の増加への懸念**

AI技術を悪用して行われるサイバー攻撃が増えている現象です。生成AIを使ってフィッシングメールを自動生成したり、ディープフェイクを作成して詐欺を行ったりする手法が増えています。巧妙化、低コスト化、自動化が可能になり攻撃の精度や規模が増大しています。



HOT WORD  
**デジタルツイン**

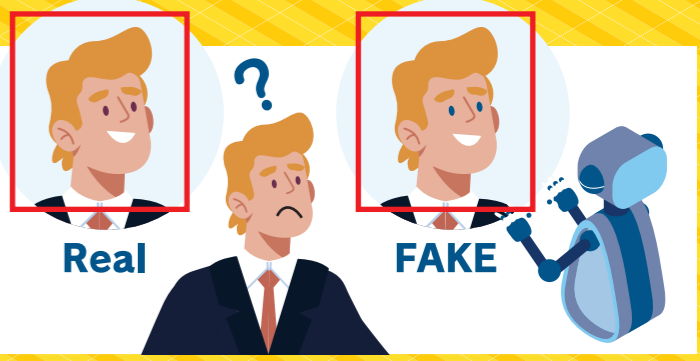
現実世界のデータを基に仮想空間に再現する技術です。製造業では工場の設備をデジタルツインで再現し、故障予測や生産効率の向上を図れます。また、都市計画では、仮想空間に都市全体を再現し、交通渋滞の予測や災害対策に活用できます。リスクの低減、コスト削減、品質向上が期待できます。

HOT WORD  
**メタバース**

インターネット上に構築された3次元の仮想空間です。アバターを使ってこの仮想空間内を移動し、交流したり、買い物やイベントに参加したりすることができます。また、企業がメタバース上で新製品の発表会を開催したり、教育機関が仮想教室を提供することもできます。物理的な制約を超えたコミュニケーションやマーケティングといったビジネスの機会が生まれます。



# Attention!! ディープフェイクって、何?



人工知能(AI)を使って、人物の顔や声を別人のものに入れ替えたり、存在しない人物を作り出したりする技術のことです。特に、動画を加工するものが多く、あたかも本物のように見えるため、注意が必要です。  
**「ディープラーニング(深層学習)」というAI技術を悪用して作られることから、「ディープフェイク」と呼ばれています。**  
 2024年には、日本の総理大臣の偽動画が作成され、総理大臣が実際には言っていないことを話しているように見せかけたものがSNS上で広く拡散されました。偽の情報を流し、間違った世論や情報へ誘導することがあります。また、ディープフェイクで作られた偽の音声を使って、親族や知人になりすまして金銭をだまし取る詐欺が発生するリスクもあります。信用や名誉を毀損される恐れもあり、対策が必要になってきています。社会的に与える影響も大きく、そのため「AIの社会原則」などが世界のトップリーダーや政府、企業で盛んに議論されています。

## Column

# 今回は Gemini に聞いてみた!

\* Gemini(ジェミニ)は、Googleが開発・提供するAIチャットサービス。「ジェミニ」と読むことが一般的ですが、「ジェミナイ」と発音されることもあります。

**Q** 生成AIは便利だけど・・・現段階でのその真価は文書や画像の作成の“作業レベル”に留まるよね。文章や画像の作成は自動化できても、特定の業務やビジネス全体を革新するには、まだ時間がかかるのかな??? AIをアプリケーションレベルにしていくためには、AIエンジニアや開発者側はどんな課題や技術開発に取り組んでいるの? また、私たち、「ユーザー」側は、その時までどんな準備が必要?

**◆ Geminiの回答** \*以下はGeminiの回答がベースとなっておりますが、わかりやすいように編集・アレンジを加えております。

### ●生成AIの進化と課題、そしてユーザー側の準備

おっしゃる通り、現在の生成AIは、文章作成、画像生成、要約、翻訳、編集といった作業レベルのソリューションが中心です。しかし、今後は業務や職務、業種に特化したアプリケーションレベルへと進化していくことが期待されます。

### ●アプリケーションレベルへの進化に必要なこと

#### ①データ収集と学習

特定の業務や職務、業種に特化した大量のデータを収集し、学習させる必要があります。例えば、医療分野であれば、カルテや論文などのデータを学習させることで、診断支援や創薬研究に役立つAIを開発できます。



#### ②モデルのカスタマイズ

特定のニーズに合わせて、既存のモデルをカスタマイズする必要があります。例えば金融分野であれば、リスク管理や様々な顧客対応のデータを学習させることで、その分野に特化したAIが開発できるようになります。



#### ③ユーザーインターフェースの開発

専門知識がなくても、簡単に使えるユーザーインターフェースを開発する必要があります。例えば法律分野であれば、法律文書や契約書、過去の判例などを学習させることで、その分野に特化したAIを開発できるようになります。  
 \*ユーザーインターフェース:ユーザー(利用者)が製品やサービスを利用する際に、目に見たり触れたりするすべての部分を指す。

#### ④セキュリティと信頼性の確保

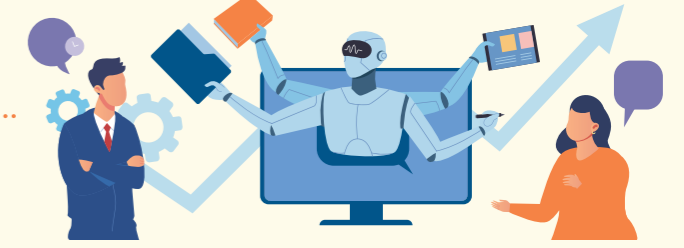
個人情報や機密情報を扱う場合、セキュリティと信頼性を確保する必要があります。例えば、政府機関は、国民の個人情報を安全に管理できるAIを開発、利用する必要があります。また「人間中心のAI社会原則」に順応していることも重要です。



### ●ユーザー側の準備

#### ①現状のAIに慣れておく!とにかく「習うより、慣れる」です。

Gemini、ChatGPT、Copilotなどのツールを積極的に利用し、AIの得意分野と不得意分野を理解しておくことが重要です。



#### ②情報収集

AI技術の最新トレンドを常に情報収集し、業務にどのように活用できるかを想像して試みるのが大切です。

#### ③AI関連のスキル習得

プロンプトエンジニアリングを学ぶ需要は大いに高まるでしょう。プロンプトを上手に簡単に書けるように、AIといろいろな対話をしてみることはいかがでしょうか。AIに対して適切な指示を出すスキルを磨くことが一番大切です。

#### ④業務の見直し

AIはプログラムです。正しい業務フロー・正しい指示でなければ、正しく処理してくれません。導入を前提に、既存のプロセスを見直し、効率化、特に定型化できる業務を見つけましょう。



#### ⑤データの整理と管理

企業内のデータを整理し、正しく信頼できるデータにクレンジング(掃除)しておくことが大切です。さらに、社内の知識(ナレッジ)を整理し、AIが正しく検索・分析できる「ナレッジデータベース」を構築するとよいでしょう。

やはり2025年のトレンドNo.1はAI関連ですね。  
 Geminiの回答にもありましたが、「習うより、慣れる」です!  
**Windows11Proには無料で使える生成AI「Copilot」が搭載されています。**  
**しっかり使いこなせるようになりましょう!**

Windows 11の導入サポート、AIを中心としたトレンド情報ご提供は  
 まるっと当社にお任せください!